

(別紙様式10)

### 2020年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

申請区分:  萌芽的異分野連携共同研究  共同推進研究  
 産学官連携フュージビリティ・スタディ  
 共同研究集会  産学官連携課題設定集会

研究課題名: 国際社会における「北極域観光」振興にかかる課題抽出のための会議開催

研究期間: 2019年度

共同研究員	氏名	所属・職名	専門分野	区分 (注1)
研究代表者	上田裕文	北海道大学 観光学高等研究センター・准教授	景観計画 観光まちづくり	
研究分担者 (拠点外)	高橋修平	日本雪氷学会・会長	地球物理学 極域雪氷観測	
	西山徳明	北海道大学 観光学高等研究センター・教授	観光開発国際協力、世界 遺産管理	
	田中雅人	北海道大学 北極域研究センター 特任教授	産学官連携、北極域観光・ クルーズ	
	森太郎	北海道大学大学院工学研究院 准教授	建築環境学 寒冷地・室内気候	
	本多俊和	元放送大学教授	極北地域、文化人類学、先 住民	
	福山貴史	北海道大学 観光学高等研究センター・博士研究員	雪氷観光創造 資源・人材開発	
	加藤知愛	北海道大学産学・地域協働推進機構 博士研究員	産業創造 非営利組織経営	
	Antti-Jussi Yliharju	Lapland University (Finland) Lecturer	Art&design, Snow& ice installation	
	白井裕子	北海道大学 北極域研究センター 学術研究員	北極域人間 と社会	
研究分担者 (拠点内)	大西富士夫	北海道大学 北極域研究センター 准教授	北極ガバナンス・政策	
	Juha Saunavaara	北海道大学 北極域研究センター 助教授	北欧・北極域社会と産業	
研究協力者 (注2)	小林英俊	北海道大学 観光学高等研究センター・客員教授	エコツーリズム、CBT	

【研究の内容】

(1) 図表や写真も交えて、研究の内容や成果等を 1000 字程度で簡潔に以下にまとめてください。

今後の「北極域観光」を関係各国が振興する際に生じる問題点を予測的に議論し、その解決策として国際社会に求められる課題を観光の観点から抽出し、明文化することを本会議開催の目的とした上で、事前に研究打合せを 5 回(講話者打合せ 2 回含む)、本会議を 1 回(下表)実施し、後述する北方圏国際シンポジウムで成果発表を行った。以下に、下表に記載したそれぞれの研究打合せ等で議論した内容とその成果を簡潔に報告する。

・第 1 回研究打合せ(7 月 22 日)

北極域観光に関しては、そもそも情報が少ないことが前段として確認された。その上で今後の情報収集、および議論の軸の設定が検討された。また、共同研究員の各専門分野の知見同士のシナジー効果を創出さ得る具体的な研究テーマの検討が積極的に行われた。最後に、本共同研究の意義や可能性は認識されているものの、本質的な研究成果を収めるには単年度研究では限界があることが協議され、結果的に本共同研究は複数年度に亘るべきという方針が明確に打ち出された。

・第 2 回研究打合せ(10 月 2 日)

国際的に既に設置されているガイドラインや課題等を探るため、WWF(世界自然保護基金)、AC(北極評議会)、IPTRN(国際極地観光研究ネットワーク)等が、調査対象に挙げられた。また、U-Arctic(北極大学)における観光振興における課題の言及が参照可能となった。クルーズ観光では、西側(東スヴァーバル諸島など)における「オーバーツーリズム」の問題が指摘され、こうした課題に基づき、今後の東西比較研究の方向性が示された。また、AECO(北極探検クルーズオペレーター協会)の組織概要や活動内容についても確認が行われた。

・第 3 回研究打合せ(10 月 29 日)

第 2 回会合までの議論に基づき、現段階で議論されている北極域観光における課題やガイドラインの、具体的な内容を網羅的かつ横断的に把握し、基礎分析を行った。その際に、AC における AMTP(北極海観光プロジェクト)や、北極域観光に関する論文等も本分析対象含まれた。結果的に、本分析結果が今年度の共同研究の成果の骨子に該当することが大筋で認められた。

・本会議(12 月 19 日)

以上の議論や検討から導出された共同研究の成果は本会議で確認された。具体的に北極域観光振興にかかる課題は、Fig.1(次頁)に示されるように、8 つの分野に整理され、さらにその各分野は 4 つのスケールレベルに集約されることが明らかになった。8 つの分野とは、①地域文化・先住民の尊重、②コミュニティ優先、③適切な観光振興、④学術研究の推進、⑤ルール・規範の遵守、⑥意識啓発・教育、⑦エネルギーへの配慮、⑧環境保全であり、これらはそれぞれ「地域」、「国」、「国際社会」、「自然環境/地球」の 4 つのスケールレベルに集約された。

Scale level	Issue's belonging field
Community	"Respect to local culutre and indigenous people"
Country	"Prioritize community"
International Society	"Proper tourism development"
Natural Environment /Earth	"Academic research promotion"
	"Compliance to Code/Rule"
	"Awareness rising / Education"
	"Consideration for energy"
	"Environment protection"

Fig. 1 Classification of issues in different dimension

こうして導出された課題の整理を踏まえ、次年度以降に本基礎分析結果を深化させた継続研究を想定している。具体的には、下記の 3 つのポイントを重要視する。

- 1) 北極域観光における下記 8 つの課題(Fig.1)を精査した上で重点分野を選定(コミュニティレベルを含める)し、議論を深める。
- 2) 北方圏の東西比較研究を射程に入れ、北海道の事例分析に基づき、抽出課題の精度を上げる。
- 3) 観光の「負のインパクト」と「正の機能」の両側面のアプローチにより先端的な課題を抽出する。

以上、本年度を振り返り、改めて地球温暖化の影響によって解氷が進む北極海では、その航路拡大に伴い、観光による利用と開発が急速に促進される可能性が高まっている。このような状況下、オーバーツーリズムに代表される過度な観光振興による負のインパクトへの対策や予防策が国際社会において求められる。本共同研究による問題点の洗い出し、そして適切な課題の抽出は、以上の背景を踏まえ重要である。また、このような経緯から導出された課題については、AC のオブザーバーである日本から、将来的にAC に対し発信することが望ましいと考える。こうした日本のプレゼンスは、直接利害関係のある AC メンバーと比較し、冷静かつ客観的な視点を持ち合わせており、だからこそ国際社会が納得できるような説得性を示せるだろう。

(2) 本共同研究に関連する活動(研究打合せ、学会参加、調査等)を実施した場合には、下表に記入してください。

日程(月日)	日数 (日)	活動内容	場所	共同研究員・研究協力者の参加者名	参加者数 (人)
2019.7.22	1	研究打合せ	札幌	上田裕文、大西富士夫、白井裕子、田中雅人、福山貴史、森太郎、Juha Saunavaara	7
2019.10.2	1	研究打合せ	札幌	大西富士夫、田中雅人、福山貴史、森太郎、Juha Saunavaara	5
2019.10.29	1	研究打合せ	札幌	大西富士夫、田中雅人、福山貴史、Juha Saunavaara	4
2019.11.26	1	研究打合せ	川崎	小林英俊、福山貴史	2
2019.11.27	1	研究打合せ	東京	本多俊和、福山貴史	2
2019.12.19	1	本会議実施	札幌	大西富士夫、加藤知愛、小林英俊、高橋修平、田中雅人、西山徳明、福山貴史、本多俊和、森太郎、Juha Saunavaara	10

**【研究論文や著書等】**

著者名(共著者名含む)、発行年、論文タイトル、掲載誌名、巻・号、ページ数、DOI、査読の有無、インパクトファクター(IF、分かれば)、分野(表下にある(注3)から一つ番号を選択)を記入して下さい。

著者名, 発行年, 論文タイトル, 掲載誌名, 巻・号, ページ, DOI	査読の有無	IF	分野 (注3)
Takafumi FUKUYAMA, Hirofumi UEDA, et al (2020). Fundamental Analysis of Significant Issues Regarding Development of “Arctic Tourism,” Proc., 35rd Int’l. Symposium on Okhotsk Sea and Polar Oceans: 147-148	無		⑨

(注3) 分野:① 化学 ② 材料科学 ③ 物理学 ④ 計算機&数学 ⑤ 工学

⑥ 環境&地球科学 ⑦ 臨床医学 ⑧ 基礎生命科学 ⑨ 人文社会系

**【研究発表】**

以下の事項をご記入ください。

発表年月日、発表者名(共著者を含む)、発表タイトル、発表学会等名称、発表地(国、県、市など)、招待講演についてはその点も明記してください。

発表年月日	発表者名	発表タイトル	発表学会等名称	発表地	招待講演 (○)
記入例 2020.2.18	福山貴史(北海道大学 観光学高等研究センター・博士研究員)	Fundamental Analysis of Significant Issues Regarding Development of “Arctic Tourism”	第35回北方圏国際シンポジウム	紋別	

**【特許等】**

該当なし

**【本共同研究に関連して実施した集会(注4)等】**

該当なし

**【本共同研究の発展】**

本共同研究が継続採択された場合、本年度の研究成果を踏まえた研究内容を、次年度の科学研究費に応募する予定である。

**【アウトリーチ、取材、その他】**

該当なし